

講義名	日本語総合A(1年生のみ)			授業形態	
担当教員	小笠原 愛子	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

この授業では、学部留学生としての大学生活に必要な日本語能力を身につけ、向上させるため、日本語の文法項目を広く学ぶ。日常生活だけでなく、大学での授業を理解し、試験・レポート等に対応するための文法項目を理解し、さらに運用できるようになること、日本語能力試験に対応できるようになることを目的とする。

到達目標

大学での学習に必要な文法項目について理解し、それらを運用できるようになる。日常のコミュニケーションだけでなく、授業を理解し、自らの考えを構築して伝えられるようになる。日本語能力試験に合格できる日本語能力を身につける。文法項目の意味を理解し、適用することに加え、使用場面についても適切に判断できるようになる。

提出課題

課題・小テストなどを授業内で指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

授業中に解答を提示し、解説する。

評価の基準

授業内の課題・小テスト(30%)、
理解度確認テスト(自35%×2=70%)

履修にあたっての注意・助言他

毎回出席をとる。
欠席が5回以上の場合、成績評価の対象としない(放棄したものとみなす)。
1.5分以上の遅刻は欠席とみなす。
遅刻(14分以内)5回で欠席1回としてカウントする。
小テストは授業の最初に行う。5分以上遅刻した場合、小テストを受けられず、0点扱いとなる。

教科書

.使用しない。				
---------	--	--	--	--

参考図書

.新完全マスター文法N2.	友松悦子・福島佐知・中村かおり	スリーエーネットワーク	1200	9784883195657
.日本語能力試験公式問題集第二集N2.	独立行政法人 国際交流基金	凡人社	700	9784893589378

その他

授業中に資料を配付する。

授業計画

- 第1回 授業に関するオリエンテーション/レベルチェックテスト
- 第2回 ことばを説明する
- 第3回 ことばを説明する
- 第4回 主語を含めて説明する
- 第5回 主語を含めて説明する
- 第6回 主語を述べる
- 第7回 文法形式の整理
- 第8回 理解度確認テスト
- 第9回 文の文法・文章の文法
- 第10回 文章の文法
- 第11回 問題演習
- 第12回 問題演習
- 第13回 問題演習
- 第14回 問題演習
- 第15回 理解度確認テスト

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> エ：グループワーク
<input type="checkbox"/> オ：プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習……前回授業配布した資料を読み、意味のわからない言葉について調べておく。
復習……授業と小テストの内容について復習する。書く・音読するなど、自分で文を産出できるようにする。
テストのための勉強……前回授業で指示したテスト（小テスト・理解度確認テスト）のための勉強をする。（計4時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

留学生を対象とする日本語科目である。本学で学び、真に豊かな社会を思い描いてその実現に貢献するビジネスパーソンとしての見識と能力を身につけるため、社会生活と学修に必要な日本語能力を身につけること、その能力をより向上させることをめざす。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考